

◆ 平成27年度活動報告シート ◆

団体名：未来遺産・見沼たんぼプロジェクト推進委員会

代表者：代表 新井一裕

URL : <http://minuma-miraiisan.jp/>

1. 活動が必要とされた状況

見沼たんぼ地域での土地利用の中心である農業が、「人と環境にやさしい豊かな産業」として存続し、発展していけるように、首都近郊である利点を活かしながら「農業生産者等と都市住民・行政・公的団体との連携・協力と支援関係を広げ、強めていく活動」を推進することが必要です。そのため、見沼たんぼ地域での「人と環境にやさしい都市農業」の振興方向、農業文化の伝承、食育活動、地産地消活動、農業体験教育活動、各種の支援活動など、今後の在り方などについての学習・研究交流活動(シンポジウム)に取り組みました。



上記の状況を踏まえて、行政機関・農家経営者・市民団体のリーダーなどの専門家の講演と意見交換会を中心としての「学習・研究交流活動」と、その研究活動の成果のとりまとめとしての「本の出版」及びその後の「連携・推進組織の設置」に取り組んでいます。



2. 活動の内容(実施時期、参加人数、活動内容など)

- ①平成27年9月12日 41名 さいたま市・埼玉県などの農業政策のシンポジウム
- ②平成27年10月29日 35名 特色のある農業経営者などとのシンポジウム
- ③平成27年11月15日 37名 農業体験活動関連の市民団体等のシンポジウム
- ④平成27年12月19日 33名 都市農業の振興と支援活動に向けたシンポジウム
- ⑤平成28年1月19日 34名 農業者と市民との「連携推進組織」づくりシンポジウム
- ⑥平成28年1月～3月 研究活動の成果の「本の出版」と「連携推進組織」の準備

3. 活動の成果

- ①今回の連続的な交流シンポジウムの開催を契機に、農業者、市民団体、行政機関との連携の機運が高まってきています。
- ②研究活動の報告書がまとまりつつあり、それを活用しながら農業者と市民との「連携推進組織」の準備を進めています。
- ③この研究活動を通じて、見沼たんぼ地域での「人と環境にやさしい都市農業」振興の可能性がしっかりと感じられてきました。



4. 今後に残された課題

- ①見沼たんぼ地域での「人と環境にやさしい都市農業の振興」に向けて、直売所機能の強化や、エコロジカルな農法の普及・拡大など、更なる研究と連携が必要とされています。
- ②今後、農業者と市民団体との「連携活動」を息長く、持続的に進めていくことが求められています。